

電信課長

大臣
次官

政務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官

トビ

暗

高橋宗吉

三浦徳一

日外務大臣

山崎領事代理

第六號

作本ヨリ

第一號

在支に候發大臣宛電報第六號
ノ件ハ六月九日当地ヲ通過シテ、タタヒ
赴キタル大連日外務大臣(奉天ニ在リテ)
記者森野(玉明)ヨリ本官カ向キタル

MT

1614 5

491

雜誌中ノ一紙ナリシガ偶々同ノハナリ
ヨリ歸リ来タリ一兩日中更ニ陸軍
測図班(玉明)大尉一行ノ後者トナリ
ク、ソノ一赴リヨリヨリ旅行記明書
願出カタルヲ以テ本官ハ能ク同ノ為
使員ヲ與ヘ、蒙テ軍編成ノ内容ヲ探
ラントシタルニ同ノハ此ノトナリハ、新
トテ口ヲ緘シテ語ラズ又同ノ語依
六佃信夫ノ目ニ歸朝シテ東京
大ニ保ノ自定ニ在リト更ニ同ノハ東

MT

1614 5

492

京市外池上布、客名、三首、十三番地
 蒙古(吉野山崎)ケンジ、稱シ
 雜誌ヲ發行シ居ル。ニ、關、居ル點
 ヲ、想像スル、同布、本件陰謀團
 ノ、機關、ア、ヤト、思ハル、当地、於テ、ハ
 以上、事、海、外、探、査、スル、得、ル、
 事、ト、眞、偽、ハ、寧、口、南、東、ニ、於、テ、調、査
 セ、ル、ト、便、宜、ト、信、ズ、
 朝鮮、人、ノ、旅行、記、取、書、ヲ、興、ハ、ラ、レ、ド
 同、人、ノ、陸、軍、測、圖、班、附、隨、者、ト、ハ

MT 1614 5 493

必要アル時、何時ニテモ、陸軍官署ノ
 手、ヲ、經、テ、在、配、シ、得、ク、レ、ト、信、ズ、
 右、在、支、使、事、天、湯、南、ノ、行、渡、ヲ、禁、
 止、ス、官、署、招、車、ノ、ル、ク、レ、ト、ハ、官、署、ノ、
 行、渡、セ、ル、
 (吉林總領事館經手ノ行、渡、前、シ、)

MT 1614 5 494

520647

秘 7553 號

大正八年六月廿一日接受

警務局

第三課

六月二十日

高

六月二十日午前十一時一發
二十日午後八時七分發

發

著

將

東

少

將

長

宛

在

電

報

次

長

支

極

支極秘第二四九号續キ

杉井電報〇マウイツキイ大佐ハ今日小官ト會見

シ苦ナソシモ十九日ツケタニ向ヒ出發セリ外蒙政廳

及「ブリアヤアト」ハ彼ノ勸誘ニ對シ屢會議セシモ遂ニ

何等纏マツタル決意ヲ與ヘサリシモノ、如ク彼ハ小官カ

妨害セリトノ悪感ヲ抱キ歸還セルカ如シ當地「ブ

ヤアト」ノ知識階級ハ「セミヨ」ノフヲ指喚セルハ日本

ナラスヤト称シ「マウイツキイ」今回ノ資格ニ就キ迷ヒアリ同

大佐當地帯在中ノ行動ハ独立運動ノ外他ニ目的ヲ

有セザリシ如ク認メラル、ニ就キ小官ハセミヨ「フ」ノ同大

佐派遣ノ件ニ就キ疑ナキヲ得ス

後段補綴済シ

陸軍

MT

1614 5

496

MT

1614 5

495

電信課長

大臣
次官

古

政務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官

奉天発
本省着
大正八年六月二十一日
赤塚總領事

内田外務大臣

第一号二號

本官發在支公使宛電報

第一八号

貴體。五号(貴官發大臣宛第八七八号)

二関シ

石本権四郎ノ本官ニ語ル處ニ依ルバ関
係者ハ主トシテ石本兄弟ナルモ資金

ナキ為ノ目下何等ノ進行ヲ見ザル
状況ニテリ而シテ石本等ガセモノノ
ニ接近シツアル目的ハ之ニ依リテ北滿方
面ニ牧場並ニ農場ヲ獲得セシガ為ノ
ナルガ如ク又外蒙古獨立問題トハ関
係ナキガ如ク中西佃等ニ對シテ援助ヲ
依頼シタコトアル趣ナルモ格別便ニナシ
居ラスト尚ホ委曲ニ別ニ郵送セル
石本ヨリ提出ノ陳情書ニテ了
悉ヲ請フ。

MT

1614 5

498

抄
49

MT

1614 5

497

520649

本官ハ石本ニ対シテ、際他ノ誤解ヲ受ケル
ルガ如キ運動者ハ、畫策ハ之ヲ避ケ、事實
業的企畫ナラバ、其ノ積アニテ政治問題
ト離レテ計畫ヲ立テ先ヅ之ヲ本官ニ
提示スルキ様命ジ置キタリ
外務大臣ノ電報セリ

MT

1614 5

499

REEL No. 1-0649

0479

大五

520650

送第 號
年 月 日 前 時 分 發

次
吉

大正 年 月 日 起算

陸軍省

電信課長

電送第 5740 號
大正 八年 六月 四日 八時 正

高

陸軍省

高

陸軍省

陸軍省

陸軍省

陸軍省

奉天

内田外務大臣

第一〇二號

貴電第(一〇五号)開、邦人中
果に最近、痛感、可憐、
参世、ス、ア、ハ、明、方、
往電第(三六号)帝國政府、

外務省

方針、反、反、付、出、方、最
、新、種、行、動、了、西、洋、マ、シ、大、白
、累、及、及、甘、ん、様、女、上、世、轉
、台、休、佳、業、成、様、治、し、白、本
電、貴、電、第、(一〇五号)、下、世、し
本大臣、訓、令、ト、シ、テ、郵、政、電
、京、京、京、齊、哈、爾、博、州、星、ハ、指
電、之、為、年、考、本、電、ハ、也

MT

1614 5

501

MT

1614 5

500

520651

支公使ノ指電アリ

外務省

MT

1614 5

502

REEL No. 1-0649

0481

要田訓

九月。日 奉天發 在者若志等六月廿日

第一。五 四の外交大臣 赤塚總領事

小幡三左衛門通

第六。六 蹠

滿洲里駐在陸軍武官より東京

將の情報依六月より東京及

方面より知人中の々蒙吉軍編

成の計画と夫與しつゝ九月より中西

身

MT 1614 5 503

西樹 佃 信文 (道般海南) 駐

在九儘年東の島(歸東)右奉

天石本権以郎等ハ其ノ主たる物

尤カ雖川島浪速等ハ何等連絡

ヲ有セザルカ如シトノ事ナリ

シ難キハ尙ハ儘ニ取敢

奉天海南兩領事代々木副領事

ハ電報シテ事案ヲ探査シ上閣ニ

出候ハ電報方中法(里)ナリ

MT 1614 5 504



520653

附屬書類添付

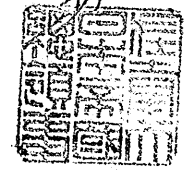
郵受 7976 類

大正八年七月二日 第一九二九號

大正八年六月二十六日

在奉天

總領事 赤塚 正助



外務大臣子爵内田康哉殿

大正八年六月二十六日附在支公使
往信 機 密 北 葉 二 四 瑞 寫 送 付

一 蒙 古 軍 編 成 二 關 ス ル 件

古 瓦 印 以

管 政 局 第 一 課

別 紙 添 付

MT

1814 5

505

寫

館事領總本日天奉在

機密外北第ニ四第

大正八年六月二十六日

在奉天

總領事 赤塚 正助

在支那

特命全權公使小幡酉吉殿

蒙古軍編成ニ關スル件

本件ニ關シテハ往電第一八號ヲ以テ大様御
回答致置候處 同電末段ニ申添候石
本提出ノ陳述書寫別紙ノ通り茲ニ及
御送付候條御査閲相成度此段申進候致具
本信寫送付先 在支公使

MT

1614 5

506

REEL No. 1-0649

0484



大正八年六月二十日

我帝國ガ已ニ西伯利亞ニ出兵セン以上吾人モ西伯利亞ニ對シテ相當ノ覺悟ヲ要ス則チ軍紀嚴正ナル皇軍ガ最モ秩序ノ乱レタル露人ノ中ニ進ムニ兩極端ノ意見ヲ有シ且ツ異ル情態アルモノガ同一地域ニ居リ然モ言語風俗ノ異ル為メ意志ノ疏通ヲ缺キ皇軍ト露人トノ間終始圓滿ナル交渉ヲナス事困難ナルガ如シ吾人ハ此ノ兩者ノ中間ニ在シ其交誼ノ円満ヲ計リ我帝國ノ出兵ヲシテ意義アラシムルハ國民ノ出進ト而シテ誠意アル援助トニアリ是レ露人ヨシテ徹底的ニ日本ヲ依頼セシムル唯一ノ途ナリトス然モ今日迄往々耳ニスル不誠實即チ所謂

在奉天日本總領事館

謂火事盜的行為ヲ敢ラスルモノアルハ遺憾トスル所ナリ、殊ニ露人有力者ノ内軍界ニ一派ノ覇ヲ稱フル「セメノ」ハ最モ能ク日本ヲ了解シテ信賴シ居ルモノナレバ先ツ之レヲ援助シ益々交誼ヲ厚クシ延テ他ノ勢力者ニ及ボス「最モ早道」ニシテ又最モ利便ノ位置ニアルモノナリト考ヘ茲ニ「セメノ」ト接近ヲ謀リタルモノナルニ偶々「セメノ」ト親交アリ且ツ「コルチヤク」ト「ホルワツト」ト「カルムイコフ」等トモ親交アル者ニシテ然モ「セメノ」フ以上ニ日本ヲ了解シ日本ヲ信賴ス「キ事」ヲ主張シ過激派ニ對シ主義ニ於テ大反對シ居ル「ワシリヤコビチ」ト「ステパノフ」ト「ゲト」ト握手ニヨリ「セメノ」トモ確實ニ握手ヲ交換シ死生ヲ俱ニス「ワク

IMT/ 1614 5

508

IMT/ 1614 5

507

盟ヒタルモノナリ然レハ財政ノ豊カナラサルセメノフ
 及ヒ吾人ニ於テ之レニ要スル費用モ僅クナラズ
 依テ一方利益ヲ捨出スルキ事業ヲ企テ其得タル
 利益ヲ以テ吾人並ニセメノフ等カ財政ノ一助トモ
 セルトルモ外ナラス此ノ意味ニ於テ中義ニコルキヤツ
 クヨリモ蒙古募兵ノ依頼ニ接シタルモ應々先ヅセ
 メノフ援助ヲ決定シタルモノナリ

一、外蒙獨立トセメノフトノ關係並ニ交渉經過
 外蒙獨立問題ニ関シテセメノフニ於テ何等關
 係セルコトナキ事ニセメノフ自身明言セル所ニシテ庫倫
 活佛ヨリ喇嘛ヲ送リテ外蒙獨立ノ援助ヲ求メタル
 コト頻々タルモ常ニ之レニ應セサルコトモセメノフ自ラ言
 明シ居リ

在奉天日本總領事館

二、外蒙獨立ニ對スルセメノフノ意見並ニ之ヲ援助セント
 聲明シタル動機
 外蒙獨立ニ對スルセメノフノ意見ニ其ノ時機ニ
 非ズ又ヤクトモ日本政府ノ諒解ナクシテ不可能ナルコト
 ヲ斷言シ且ツ自ラ母國並ニ西伯利亞ノ秩序ヲ恢復
 シ昔日ノ大露國モ再建ヲ計レル今日特ニ止クナキ
 事情勃發シ大勢ガ其獨立援助ヲ必要トスル場
 合ノ外強ヲ親ラ是レニ關係スルノ愚ヲ知リ、サレハ
 既ニ蒙人等ガ外蒙ノ獨立ヲ企圖セル為メダブリヤ
 或ハ滿洲里ニ駐在セルセメノフ部下ノ蒙兵先ツ
 共鳴シテ動搖セシテ以テ之レガ鎮定ノ方法トシテ彼等
 ニ對シテセメノフノ説クニ「自分ガ主要任務ナル過激
 派ニ對シテ果是レヲ鎮定シ以テ秩序ノ恢復ニ成

MT 1614 5

510

MT 1614 5

509

功シ任務ヲ終リシ時、諸氏ガ外蒙ノ獨立ヲ謀リ或
 其事スルコトハ自由ニシテ其際ハ自合トシテモ今日迄ノ情
 祖ニ對シ自合トシテ差支ヘナキ範圍ニ於テ可能的ノ
 援助ヲナスベキコトヲ以テ一時ノ急ヲ救ヒタシモノ
 ナリ此際其蒙兵等ト奮動シタル蒙兵指揮官男
 爵「ウンガン」等ハ旁々他ノ事情モアリ被免セラレタリ
 三、蒙古募兵ノ目的並ニ其使途
 蒙古募兵「セメノフ」麾下ノ露國兵士ハ何時過
 激思想ノ傳播ヲ受テ叛亂ヲ計ルヤモ不測前途
 頗ル樂觀ヲ許サズ之レニ反シ蒙古人殊ニ内蒙人
 「過激思想」ニ感染セタリ之ニ遠ガカリ居ルト元来
 蒙古人ハ服従心ニ厚キコトヲ蒙兵募集ノ計
 画ヲ達サタタルモノニシテ其使用ノ目的ハ後見加再ノ
 在奉天日本總領事館
 秩序安寧ヲ計リ保護スルコトニノミ使用スルコトニ
 シテ之レヲ以テ或ハ政争ノ具ニ供シ其他ノ目的ニ
 使用スルコトナキヲ確保シタリ
 四、蒙古非古募兵ト中西、佃トノ關係
 蒙古募兵ハ支那政府ニ於テ外蒙獨立ト關係アル
 ガ如ク誤解サレルヲ以テ中止セヨト命セラレタルニヨリ
 當時北京ニアリシ佃氏ニ對シ奉天經由歸東ヲ依
 頼シ各方ノ誤解ヲ解スルト共ニセメノフニ對シ援
 助サレンコトヲ希望シタルニ時偶々中西、佃ノ來奉
 アリ落合「レタル」ヲ以テ共ニ右希望ヲ依頼シタルモノナリ
 五、蒙古募兵現下ノ成行
 某政府ヲ月々セメノフニ財政上ノ援助ヲナシワ、
 アリシモノヲ中止サレタルト又某所ヲモ一時の財政援

MT

1614 5

512

MT

1614 5

511

助アル筈ナリニモ徹底セズ為メセメノフノ募兵ニ對
 スル出資ノ達ナク且ツ露貨ノ暴落ニ更ラニ大打撃
 フ其ヘ「セメノフ」ノ財政ニ餘裕ナカラシメ募兵ノ件行
 惱ミノ悲境ニ陥リタルニナラス募兵ニ云々支那及國
 際關係ニ於テ吾人ガ表面ニ立ツハ妙策ニ非ズ依テ
 蒙古募兵ト云フ字義ヲ蒙民移住ニ變更シ且ツ「セ
 メノフ」ノ財政基礎ヲ作ルバク後員加再ノ利権ヲ
 解放シ之レヲ得ルモノヲ軍資ニ充テントスルモノナリ
 六、蒙古王移住ノ意見
 蒙古王公ノ土地ニ既ニ滿漢人ノ為メニ解放セラレ實
 際名ノミノ王公多ク（殊ニ内蒙然リ）從ツテ財政頗ル
 困難ナルヲ以テ他ニ移住シ新生活ニ入ラントスルモノ
 ルヲ以テ之レ等ヲ後員加再ニ移住セシメ壯丁ヲシテ
 在奉天日本總領事館
 兵役ノ義務ニ服セシムルヲ條件トシテ相當ノ地ヲ貸
 與スル事ニ付ラ「セメノフ」及ヒ蒙古王公相互ノ諒解ア
 リ且ツ支那ヨリ之ニ對シテ交渉アル時「セメノフ」其任
 ニ當ルト言ヒ居シ、一方蒙民ノ移住ニ支那ニトリテ
 苦痛ナク寧ロ獎勵スバキモノナラバ支那側ニ悪感情
 ヲ起サシムルコトナカルバク且ツ後員加再ノ牧畜事業
 ヲ發展セシムル一助トナルノミナラズ蒙人モ安心シテ兵
 役ニ服スバク且ツ將來日本ノ立場ヨリ云フモ是レ等
 ヲ裏面ヲ深掘スルニ最モ利便ナルモノトシテ尚ホ又
 黑龍省吉林省ノ如キ多ク「ホルワット」交誼ニ内
 心「セメノフ」ニ好カラサル折柄且ツ支那ノ誤解ナ
 避クニ目的ト尚ホ又日本ガ表面ヲ活動スル様
 觀ラル、ヲ避クル点ヲシテ張作霖ト「セメノフ」トノ

MT

1614 5

514

MT

1614 5

513

握手ハ妙トスル所ニシテ此点ニ對シ内々支那側ノ意
嚮ヲ探ルニ陸軍側ニ異議ナキモノ、如キモ文官
派ニ異議アルモノ、如シ是レ或ハ米國ノ暗中飛躍
ニヨルナキカ尤モ「セメノフ」能ク此意味ヲ了解シ
居リ若シ張作霖ガ「セメノフ」ト握手スルノ意確實
ナラザバ「セメノフ」喜レテ其寫真ト挨拶状トヲ所
持スル代表者ヲ派スルコトヲ確信ス是レ張作霖
トシテモ最モ相互ノ理解ヲ得利便ヲ得ル途ナラ
ンカト考フ

動機

七、外蒙諸王ガ「セメノフ」ヲ王公ニ戴カントスル理由並ニ
外蒙獨立ヲナス時「セメノフ」(露人)ヲ戴ク「露國
ノ諒解ヲ得ルニ便宜ナルト、後貝加再ノ地外蒙ト

在奉天日本總領事館

ニ傾ル自然的密接ノ關係アリ且ツ「セメノフ」蒙人
ノ血統ニウケタルコト其後方ニ「日本アリテ且ツ比較
的ニ新式訓練サレタル蒙兵ヲ有スルコト其主ナル
推戴理由ニシテ其ノ獨立ノ動機タルヤ西伯利亞
及ヒ支那ノ現状混亂^光麻ノ如ク最モ獨立ノ好機
ナリトセルモノナルト偶々米國ガ民族自決云々ヲ發
表シタルニ刺戟サレタルガ動機トナラズモノナリ

石本権四郎 外一同

MT

1614.5

516

MT

1614.5

515

520659

秘受 8271 號

大正八年七月九日 接獲

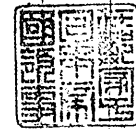
駐露高第課

機密 三〇号

大正八年六月三十日

在 鄭家屯

領事 岩村 成允



外務大臣子爵内田康哉 殿

蒙古軍編成、計画ニ參與スル者ニ
関スル件

本件ニ関シ六月二十五日付貴電ヲ以テ取
締方奉天總領事經由御訓令、趣
敬承致候右、如キ事實ハ近頃當地
方ニ於テ高々々噂知スル所無之候得
共念、為ノ内偵致候處 該計画ニ関
係スル者、出入セシ形迹 愈之候間、右
御了知相成度、尚今後注意可致候
得共不取敢此致及報告候致具

在外公館

寫送附先

在支那公使

在奉天總領事

MT

1614 5

518

MT

1614 5

517

天正八年七月九日 接受 駐政務局 第一課

520660

電報

七月九日

七月七日午後三時五分發
八月午後一時五分發

總長

宛

在

北京 東少將

秘受 8295 號

支極妙第七九号
蒙古駐在武官報告録

シウイワキール大佐ハ其ニ庫倫ニ至リシ海拉爾蒙古人
フウシヤンハ依然庫倫ニヤリテ蒙古独立運動ノ
踐ノ爲同運動ノ目的ニテ集合セシムルヲチ又シヤラト
ノ蒙古人ハ歸ルハキトヨク已ハテ得ス外蒙ハ侵
スヘント鐵道ノ外蒙政廳ヲ脅迫シツヤリ或之
ニ依リテ多少ノ金ヲ獲ントスル總賈ニハアラカシ外蒙
政廳ニテハ之ニ對シ取敢ハス車臣汗廢下ノ兵五

陸軍

百ノ國境ニ欲遣シテ不明ノ 六月十五日閣催ノ玉
候會議ニテ萬後策ヲ講スヘント同答セリト
千ヨリニ於ケルコトアリヤトノ會合ハ常教上ノ目的ヲ
カ知シ又者三日恰克圖ニ於ケル支那人ノ祭日ニ支
那官憲ハ蒙古名門全部ヲ招待シ非常ニ打
解キタル模様ナリキ事如キハ未ダ當テ見サレト
コヤリト

參謀本部 神謝 閣東 檢

MT

1614 5

520

MT

1614 5

519

520661
秘 8365

昭和八年七月十日接獲

陸軍部 第三課

七月十日

七月九日午後五時五分前
十月十日午前〇時三十分着

電報
宛 在 浦潮軍參謀長

浦參第一三五五號
五日發第三師團報

チタ滞在中ナリシタウリヤ活佛ナリシガ等ハ
昨日歸還セリ此間彼等ノ云フ所ヲ綜合セハ左
ノ如シ

一、蒙古獨立運動ニ日本ヲ援助ヲ與ハサルコトハ諒解
セルモ露支條約ニ基ク蒙古ノ自治權獨立ニ對
シテハ相當ノ同情ヲ仰ギタシ

陸軍

二、ゴロンバイル及蒙古ヘ益々増兵スルノ傾向アリ而
モ蒙族働施設ニ對シテハ裏面ニ壓迫ヲ加ヘテ寸毫
モ假借スルトコロナシ是レ我等ノ默認スル能ハサ
ル所ニシテ神經過敏ナル能ハサラント欲スルモ得ハ
カラサルナリ

三、蒙古ニ於ケル陸軍教育顧問トシテ約十名ノ日本
將校ヲ聘スルノ外蒙古軍人半數名ヲ日本ヘ
留學セシメタシ

是等ノ問題ハ事来ク重大ニシテ出先ノ軍人ニ於
テ懸断シ難キモノアルモ適宜ノ時期ニ於テ之レヲ
中央ニ傳達スルノ等ハ敢テ辞スル所ニアラスト答ヘ
置キタリ

MT

1614 5 522

MT

1614 5 521

文書課長
長
文書課
長
印

大正八年七月十四日 接

大正八年七月 日記簿

別紙

大正八年七月拾四日 發送濟

520662

大臣 拝察

大正八年七月十日 旨付

在立 政 機密送第 一 一 號

中樞公使 内田外務大臣

機密送第 一 一 號

送附ノ件

蒙古國臨時政府總統們都巴

雅爾卜祿スル者ヲ使者ヲ本邦

外務省

遣ハシ別紙譯文ノ如ク書曲

田中達摩大佐ノ許ニ差出

趣同大佐ヨリ業和致シテ閣下

奉書ニ事考也 右寫及ハ送

附也

本信場送附先奉天使館

MT

1614 5

524

MT

1614 5

523

蒙古臨時政府書ヲ大日本帝國政府ニ呈ス我蒙古族ハ現ニ微弱ナリト雖モ六百年前ニ在リテハ曾テ強國トシテ世界ニ知ラレタリ夫蒙古ハ内外蒙古、呼倫貝爾、阿爾泰、フリヤード諸族ニ分レタレドモ俱ニ亞細亞ノ中部ニ居住シ各々原地ニ在テ各王公等其舊慣ニ因リテ各々自治ヲ施行シ來リ殊ニ外蒙古ニ在テハ一九一五年（西曆）ニ於テ恰克圖三方蒙古會議ヲ開キ條約ヲ訂結シ自治獨立ノ權ヲ確定シ呼倫貝爾亦同年ニ於テ獨立ヲ宣言シテ自治權ヲ獲阿爾泰又繼テ自治權ヲ收メフリヤード又露國援助ノ下ニ自治ヲ許サレタリ

原來蒙古族ハ各方面ニ分布シ種族散居スト雖モ其實言語風俗宗教皆同

外務省

MT 1614 5 525

一ニシテ他族ノ混入ヲ許サス故ニ前清時代ニ在リテハ嚴ニ漢人種ノ蒙古内地ニ移住スルヲ禁シ其末葉ニ至ル迄之ヲ實行シ來リシガ近年以來漢人等ハ此ノ舊例ヲ無視シ強テ蒙古地方ニ侵入シ動モスレハ土地領有ノ氣勢ヲ示シ種々ノ壓迫ヲ加ヘ我種族ノ滅亡ヲ計ルニ至ルヲ以テ清朝倒壊ノ際外蒙古及ヒ呼倫貝爾ハ第一ニ獨立ヲ宣言シ其羈絆ヲ脱シタルモ内蒙古哲里木盟一帯地方ニ於テハ獨立ヲ謀リテ力足ラス不成功ニ終レリ而ルニ彼等漢人ハ宣統三年清第十世皇帝ノ幼弱ナルニ乘ジ武力ヲ以テ其退位ヲ要請シ一モ藏蔵ノ諸族ニ計ル所無クシテ恣ニ五族共和ヲ布告シ袁世凱漢族ノ中ヨリ出資ニ總統ト稱シ此ヨリ爭亂止マズシテ人民ヲ災シ遂ニ匹夫ノ身ヲ以テ帝王ノ位ヲ盜マントセシニ因リ一層ノ紛擾ヲ惹起シ今ニ至リテ南北ノ確執ハ甚シク殆ト平和ノ望無ク無事ノ生

外務省

MT 1814 5 526

靈ハ塗炭ノ苦ニ哭セリ此レ五族共和ト稱スルモ漢族一種スラ尙ホ和合ヲ見ルニ至ラス國內統一スラ未タ成ラサルニ濫ニ兵ヲ蒙古内地ニ進メ威力モテ土地ヲ占領シ剩サヘ寺廟ヲ破壊シ宗教ヲ侮蔑シ飽クマデ利權ヲ貪リ我カ蒙古族ノ不利ヲ圖レドモ之ニ對スル國會議員ノ多數ハ漢族ニ屬スルガ故ニ少數ナル蒙古議員ハ之ト抗爭スルニ足ラス諸事皆漢人ノ言ニ決シ蒙古族ハ常ニ其ノ勢力ニ壓倒セラレテ苦痛ヲ訴フルニ所無キヲ如何セン

我蒙古族ハ此ノ苦中ニ在テ去年三月露國過激派ノ西比利亞ニ蜂起セシニ値リ東洋平和維持ノ目的モテ露國ノセミヨノフ等ト謀リ所屬各族ヲ糾合シテ之ガ聲援ヲ爲シ殊ニフリーヤード族ノ如キハ年齡十九歳ヨリ以上二十一歳ニ至ル迄ノ壯丁ヲ出シテ之ニ應シ其他一切事件ニ關シ微力

外務省

MT 1614 5 527

ヲ竭シテ聯合軍側ニ援助シ其功績聊カ聯合軍ノ認ムル所トナリシハ此貴國ノ熟知セラル、所ナラン

翻リテ蒙古傳來ノ舊史ヲ按スルニ蒙古ハ本ト完全ナル獨立國ナリシモ一六三六年ニ時ノ統治者林丹汗死シテ其子モ亦尋イデ死シ後繼者無カリシニ因リ內蒙古王公等ハ已ム事ヲ得ス滿洲國ノ徹辰汗（即チ清ノ太宗）ニ請フテ皇帝ニ推戴シ滿洲ハ之ヲ納レテ年號ヲ崇德ト改メタル事實アリ同年四月二十三日內蒙古各王公等ハ俱ニ赤峰ノ地ニ會シ該皇帝ヲ奉シテ兼テ蒙古ノ統治者タラシムル事ヲ發表セリ然レトモ未曾テ漢族ニ向フテ降服セルモノニ在ラス蓋當時ノ意ハ後來若シ滿族滅亡ノ期アラハ蒙古族ハ隨意分離シテ其ノ根本ノ地ヲ保チ蒙古固有ノ利權ヲ失ハザルニ在リ此ニ由リ之ヲ觀ハ滿洲皇帝退位ノ後ハ更ニ民國ト何等ノ

外務省

MT 1614 5 528

關係無キ事明ナリ

又外蒙古ニ於テハ一六八八年ノ昔時ニ在テ各部落ノ王公等多倫諾爾ニ
會シ太清皇帝ヲ仰ギテ其皇帝ニ推戴シタル事アルモ又絶テ漢族ニ服屬
シタル事無キカ故ニ中國政府ヨリ蒙古ノ利權ニ關シ毫モ蒙古族ノ自主
ヲ侵害シ得ヘキ理由無シ故ニ既ニ獨立自主ヲ確立シ條約ヲ定メテ一九
一五年ノ恰克圖會議ニ於テ之ヲ發表セリ當時內蒙古ハ種々ノ關係ニヨ
リテ此ノ新建國ニ加入セサリシモ其漢人ニ心服シ能ハサル事ハ全ク同
一ニシテ屢々脫離ヲ謀リテ民國ト兵火ヲ交ヘ今ニ至ルモ汲々トシテ猶
ホ其ノ目的達セサレハ置カサルノ概アリ呼倫貝爾ハ外蒙ニ繼キテ民國
ヨリ離脱シ一九一五年露國カ民國ト協商スルニ及ヒ條約ヲ立テ、獨立
自治地トナレリ此ニ由リ之ヲ觀ハ自主權ノ全蒙古族ニ存在セルハ明白

外務省

MT 1614 5 529

ノ事實ニシテブリヤートノ如キモ曾テ露國ノ承認セシ所ナリ

以上述ブル所ノ如クナルヲ以テ我蒙古族ハ民國ノ苦境ヲ脱シ一安樂
國ヲ樹立セントスル者ニシテ即チ萬里ノ長城ヲ以テ漢族ト境界ヲ畫
シ蒙古固有ノ根本地方ヲ領有シ一千一百万人ノ大衆ヲ擁シ威權具備
ノ一大自主國ヲ形成セントスルモノナリ

今ヤ世界ハ平和ノ氣象ニ包マレ平和會議ハ歐洲ニ開カレ輿論ハ正義
人道ヲ高唱シ各民族ノ自決ヲ標榜シテ起ツモノ隨處皆然リ是時ニ當
リテ蒙古獨リ萎靡シテ振ハス屈ヲ抱テ伸フル事能ハスンハ更ニ何ノ
日ヲカ待タン是ニ於テ我等ハ奮然トシテ與リ全蒙古代表會議ヲ開キ
以テ根本地ヲ守リテ舊來ノ宗教ヲ保護シ同心協力シテ一獨立國ヲ樹
立シ臨時政府ヲ所屬呼倫貝爾地方ニ設立シ一般行政事務ヲ管掌シ

外務省

MT 1614 5 530

正式政府實現ノ日ヲ俟テ更ニ憲法ヲ制定セントス
 因テ思フニ民國ハ内ニ仁政無ク外ニ信義ヲ失フ人々禍心ヲ包藏シテ自
 利ヲ圖リ貴國ヲ欺凌シ歐米人ニ頼リテ其ノ大ニ欲スル所ヲ行ハントス
 固ヨリ與ニ亞細亞ノ事ヲ謀ルニ足ラス
 貴國ハ之ニ反シ仁義平和ヲ以テ國是ト爲ス故ニ吾儕蒙古族ハ深ク信ス
 同種同教ニシテ唇齒ノ關係モ亦深シ必ス我等ノ苦境ニ一片ノ同情ヲ垂
 レ黃種興隆ノ爲メ將又東洋保護ノ爲メニ我等ノ舉措ヲ是認シ之ヲ贊助
 シ我等ヲシテ目的ヲ達セシメラレン事ヲ果シテ然ラハ永ク貴國ノ恩ニ
 感シ推シテ東洋ノ盟主トシテ其ノ德ヲ謳歌セン
 此カ爲メニ蒙古臨時政府建設ノ緣由及ヒ全蒙古族ノ意趣在ル所ヲ具シ

外務省

MT 1614 5 531

活佛都們巴雅爾ハ臨時政府ノ首領トシテフリヤート衙門副總理輔國
 公多爾濟林沁、呼倫貝爾副都統鎮國公福善、外務部副大臣輔國公諾
 倫伯爾等三人ヲ使節トシテ貴國ニ派遣シ内外蒙古呼倫貝爾阿爾泰及
 ヒフリヤート各部蒙古人等一體協同樹立セル新建蒙古國ノ承認アラ
 ン事ヲ請ヒ并テ請フ貴國ヨリ顧問官ヲ派遣シ我カ國開發ノ指導ヲ爲
 サン事ヲ我國人ノ赤心ニシテ他意無キ電報ヲハ夙ニ貴國ノ熟知ス
 ル所ナラン故ニ呈ス

蒙古國元年四月二十五日
 蒙古國臨時政府總統奈齊托音胡圖克圖

們都巴雅爾

外務省

MT 1614 5 532

520667

蒙古國外務衙門總長

斯茲業什

蒙古國軍務衙門掌印參謀長鎮國公

福善阿

蒙古國外務衙門副總長輔國公

諾倫伯爾

外務省

MT 1614 5 533

REEL No. 1-0649

0498

訓令第一〇二號
外務省
駐米大使館
米國
駐米大使館
米國
駐米大使館
米國

520668

駐米大使館

米國

大正

外務省

外務省

駐米大使館

別件、ブライヤート、務子、弟、本邦
留學、之、因、之、係、務、部、長、之、由
比利、世、之、遣、軍、參、謀、長、之、免、職
訓、令、第、一、〇、二、號、中、建、軍、省、中、備、中、佐
之、由、之、免、職、之、由、之、免、職、之、由、之、免、職
務、子、及、以、官、之、建、國、上、七
月、十、四、日、電、話、之、由、之、免、職、中、佐
左、記、要、之、由、之、免、職、之、由、之、免、職
ブ、リ、ヤ、ー、ト、務、子、弟、本、邦、留
學、之、件、之、金、金、之、免、職、之、由、之、免、職
身、之、免、職、之、由、之、免、職、之、由、之、免、職
之、由、之、免、職、之、由、之、免、職、之、由、之、免、職
中、者、之、免、職、之、由、之、免、職、之、由、之、免、職
係、務、部、長、之、免、職、之、由、之、免、職、之、由、之、免、職
之、由、之、免、職、之、由、之、免、職、之、由、之、免、職

MT

1614 5

535

MT

1614 5

534

と我方と於て關係せしむる事
不_レ能_レ耐_レし解_レすに又_レ一_レ種_レの
事なり

右_レの村に_レ捕中位_レの事細_レ承_レ知
た_レる事なり

備考) 右_レの事_レ後別_レ紙_レ附
録_レの捕_レ追_レ参_レ謀_レ及_レ其_レ電_レ寫
ニ_レ詳_レ了_レ廻_レ復_レし_レ存_レち_レる_レ事_レ第三

外務省

項_レの_レ物_レは_レ任_レ在_レ別_レの_レ事_レに_レ連
軍_レの_レ細_レの_レ思_レ出_レる_レこと_レあり

MT 1614 5 537

MT 1614 5 536

520670

景

参謀長

總務部長

案

浦参力一三三九号「ブリヤート」子弟自費
留学ノ件ハ差支テキモ之ガ實施ニ先キ其志
望ニ適スル學校ノ選擇日本語ノ豫習方法
等ニ就キテ具體的研究ヲナスノ必要アリト考フ
但シ當部奏電第一六四号「廟議決定ノ趣旨
ニ基キ公然我官憲ノ名ヲ以テスル斡旋ノ形式ハ
避ケラレタシ

外務省

MT

1614 5

538

REEL No. 1-0649

0501



520671

電報

七月 五日 午後十時 井分 陸
七月 七日 午後三時 井分 著

七月八日

次長宛

在浦潮軍参謀長

浦参第一二三九号第三師團報告

本署「ブリヤード」代表者「サンピロ」来訪會談
要旨

一 一兩日中ニ當市ニ於テ首長「ダスキ」議長トナ
リ後具加爾物ニ於ケル「ブリヤード」「アイマク」獨
立自治機關設立ニ関スル會議開カレ答是レ
内閣ニ達セン「ブリヤード」代表者ノ願ニ依リ内
務大臣ヨリ提出スルモノナルモ便宜上多少「ブ
リヤード」問題ニ對シ趣味ヲ有ス政府及地方官
憲ノ代表者等ノ交渉ニ托センモノナリ

外務省

右ニ関シ「サンピロ」ハ左程喜ヒアラカカ如シ其ノ語
調ヨリ判断スルニ彼ノ常ニ自治ヲ口ニシテ若ルモ其ノ
實「ブリヤード」ノ完全ナル独立ヲ望ミ居リシカ如シ
今ヤ媾和調印セラレ「コルムヤク」「セミヨ」ノ「モ
協セルニ依リ豫メ依頼シ置キタル「ブリヤード」人
ヲ日本へ留學セシムル問題ヲ速ニ解決セラレシ
コトヲ切望ス而モ全部自費ヲ以テ到ラントス
ヲ以テ何等ノ誤解ヲ招ク如キコトナカルヘシト
思惟セラル、ニ依リ充分盡力アリ度シト申シ
出テタリ

MT

1614 5

540

MT

1614 5

539

51

第2門

520673

極秘

秘受 8593

要目付

大正八年七月十六日接電

警務部 第7課

七月十四日

七月十三日午後四時三十分發

午後十一時四十分發

午後十二時發

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

午後

秘 10187

大正八年八月廿三日 接電

陸軍省 第一課

八月二十二日

八月二十一日午後四時二十分發
二十一日午前五時五分著

電報

宛在

宛在

宛在

東

少將

支極秘第三五二號

八月十八日發私井電

後貝加爾ヨリ來レル「ゴブリヤアト」人「ツテポ」ナル者頻リニ「ゴ

ウリヤセス」軍タル「ゴバラゴ」個人外蒙ニ進入スヘキコトヲ云

「綱」ラシ支那ニテハ之ヲ増兵ノ口實トシテ烏得ヨリ(七月十七日張

家口ヲ發スル西北軍ハ烏圖ニ集中中)騎兵一大隊山砲四門

ヲ招致セリ該部隊ハ十九日ニハ庫倫ニ到着スル筈尚支那

ニテハ庫倫旧蒙古兵營修築ノ上ハ一混成旅ヲ駐在セシムハ

ト稱ヘ居レリ

陸軍

「ツテポ」今次ノ行動ハ「ゴウリヤ」政府カ外蒙ヲ誘引シテ
獨立運動ヲサシメントスレ「魂」膽ナルカ如ク推測セラルル事
ハ彼ニ對シ日本ノ態度ヲ説明セシニ彼ハ意外ニ思ヒシ模
樣ナリシ

參謀總長、浦潮參謀長、關東參謀スミ

MT

1614 5

545

MT

1614 5

544



520675

別冊土肥原中佐ノ論要録
 了、捕控ニ准中ノ後存スル物ヲ
 進ニ傳授支ノ關係ヲ整理
 梅配ノ刀ハ善クハ造出古物
 了ヤラフシト云フコトニ
 監視ヲ要ス

外務省

子部由叔(景元)
 景元ハフツヤ...

MT

1614 5

546

REEL No. 1-0649

0506

520676

秘受11732類

要目付

紙

大正八年拾月六日接獲
關東軍參謀部第五〇八號

陸軍省 第二課

大正八年九月三十日

關東軍參謀部

特報 (支那) 第二一號

一、速ニ蒙古問題對應方針ヲ確立スルノ
必要ニ就テ

本書發送先前號ニ同シ

MT

1614 5

548

MT

1614 5

547

REEL No. 1-0649

0507

速ニ蒙古問題對應方針ヲ確立スルノ
必要ニ就テ
(九月十八日
土肥原少佐報)

本年三月初旬奉天張作霖ハ奉天黒龍江西省ノ
文武官憲ヲ會合シテ内外蒙古ノ自治制ヲ撤廢
シ之ニ省制ヲ敷キ之ヲ東三省ニ合併スル爲大
ニ軍旅ヲ整ヘ黒龍省境及蒙古ニ出兵スヘキコ
トヲ議決シ之ヲ政府ニ具申セシ以來諸情報ハ
漸次支那政府カ外蒙地方ニ對シ積局的企圖遂
行ノ底意アルヲ報シツツアリシカ最近ニ至リ
更ニ露骨トナリ總統府參陸辦公所ハ外蒙政府
カ「グリヤード」ノ獨立勸誘ニ應セサルコトヲ決
議シタルヲ以テ之ヲ支持スル爲參戰軍一混成
旅ヲ車臣汗内ノ各要地ニ配置シ別ニ從來「烏得

MT 1614 5 549

ニアリシ一枝隊(約一千)ヲ庫倫ニ進メ東三省ヨ
リ有力ナル部隊ヲ索倫地方ニ出スコトニ議定
シタリト傳ヘラレ又過般「烏得」駐在ノ參戰軍一
枝隊ヨリ約二百、支那兵自動車ニテ庫倫ニ入
リタルハ世人ノ記憶ニ鮮ナル處ナリ而シテ此
等支那側ノ企圖カ既ニ何等ノ事實ナキ「セメ」フ
ノ蒙古獨立説ヲ基礎トシ專ラ之ニ附會シ之ニ
藉口シテ自衛ノ目的ナリト揚言シツツアルハ
最注目ニ價スル所ニシテ斯クテ露支蒙協約ハ
無視セラレ規約外ノ支那兵ハ庫倫附近ニ暴威
ヲ逞フシアルモ露國今日ノ頽勢ヲ以テシテハ
又之ヲ如何トモナシ能ハサル情況ニ在リ
支那側カ斯ク蒙古ノ防衛ニ腐心ニアル所以ノ

MT 1614 5 550

モノハ一ニハ庫倫都護使陳毅カ盛ニ其ノ聲ヲ
 大ニシテ「セメノツ」南進ヲ傳ヘ或ハ西伯利亞ニ
 於ケル露國過激派ノ勢猖獗ニシテ邊境ノ危険
 ヲ叫ビアルニヨルヘシト雖支那政府カ内外困
 窮逼迫ノ裏ヨリ敢テ邊境ニ斯カル積局的企圖
 ノ遂行ヲ試ミントスルニハ何等カ特別ナル魂
 膽ノ其ノ陰ニ潛ムニヨラスンハアラス
 抑々支那ノ參戰軍ハ支那カ參戰ノ目的ヲ達ス
 ル爲就中日支軍事協定ノ積局的履行ヲ期スル
 爲正規軍ノ練成ヲ必要トシテ特設セラレタル
 モノニテ其ノ訓練ハ悉ク我軍ノ指導ニ成リ其
 ノ武器ハ皆我ヨリ供給セラレタルモノナルカ
 其ノ真箇ノ目的ハ之ニ據テ以テ政府就中段祺

瑞一派武斷派ノ勢力ヲ増進シ國內ノ統一ヨリ
 進テ軍制ノ整頓ニ資セントスルコト恰モ歐戰
 前袁世凱カ獨逸將校ヲ聘シテ模範軍團ヲ作ラ
 ントセシ當時ノ用意ニ髣髴タルモノアリテ昨
 今南方派及所謂長江督軍等カ該軍ノ撤廢ヲ怒
 號スル所以實ニ茲ニ存ス故ニ政府殊ニ段派カ
 其ノ勢力保持上之カ存置ヲ必要トスル爲之カ
 用途ト其ノ効果トニ於テ十分ナル理由ヲ得
 以テ之カ口實ト爲サンコトヲ想フ結果恰モ
 露國ノ頽敗ヨリシテ西伯利亞方面ニ於ケル其
 ノ威力頓ニ衰ヘタル今日微弱ナカラモ支那政
 府カ之ニ對抗シテ歷年露國ニ對シ失ヒタル外
 蒙ノ諸利權ヲ回收スル爲本參戰軍ヲ使用シ以

MT

1614 5 552

MT

1614 5 551

テ外交上ノ一成功トシテ内政ニ資シ且竊ニ茲
ニ武断派ノ勢力ヲ蓄蓄シテ中原飛躍ノ策源ト
ラシメントスルハ蓋シ自然ノ數ナルヘク尙更
ニ本問題ノ爲ニ考究ヲ要スルハ奉天ノ張作霖
ト段祺瑞ノ關係トス

張作霖ハ袁世凱没落ノ前後ヨリシテ段祺瑞ト
ノ聯絡成リ爾來其ノ有カナル後援者トシテ活
動シ其ノ南方征伐ニ當リテハ策士徐樹錚等ト
相謀リ我國ヨリ購入セシ參戰軍用兵器ノ無断
横領ヲ敢行シテ世上ノ物議ヲ沸カシタルヲ始
メトシ新編暫編補充旅等ノ名ヲ以テ十數箇混
成旅ヲ編成シ之ヲ南下セシメテ段派南征軍ノ
旗鼓ニ一段ノ光彩ヲ添ヘタリシカ結局南方統

一ノ事ハ事意ノ如クナラズ失敗ニ終リシト雖
該兵力ハ轉シテ彼多年ノ宿願タル東三省統一
ニ用キ容易ニ宿敵孟恩遠ヲ驅逐シテ其ノ目的
ヲ達スルヲ得最早三省内地ニ憚ルモノナリ其
武ヲ用ユルノ餘地ハ内外蒙古ノ外ナキニ至レ
リ斯ルカ故ニ前記慘戰陣ト相呼應シ邊防テウ
美名ニ蔽ハレテ其ノ擴張セル兵力ヲ使用シ滿
蒙ニ拔クヘカラサル勢力築設ノ要ヲ生シ來レ
ル所以ト見ルヘク從テ將來ニ於ケル武断派ノ
北方經營ハ單ニ邊境ノ事件ニ止マラス支那全
政局ニ甚ナカラサル影響ヲ齎スニ至ルヘク大
ニ刮目シテ見ルヘキ事ニ屬ス支那政府カ段張
等武断派ノ希望ヲ容レテ蒙古ノ自治撤回ヲ企

MT 1614 5 554

MT 1614 5 553

圖ニアルハ殆ト疑ヲ容レサル所ナリ從テ若シ
 現狀ノ儘之ヲ自然ニ放置セラレンカ早晚漢民
 族ノ威カハ頓ニ加リ露人ハ漸次驅逐セラレテ支
 那人ノ跋扈トナリ蒙族ノ壓迫トナルヘキハ想
 像ニ難カラサル處ニシテ果シテ如斯ンハ單ニ
 極東哥薩克ノ總頭梁タルノミナラス陰然ガリ
 ヤード族及蒙古族ノ親分ヲ以テ自ラ許セルセ
 メノフ耐ヘ得ル所ナルヤ殊ニ多年來支那人ヲ
 蛇蝎視シ其ノ壓迫ヲ嫌忌シアル蒙族ノ忍ビ得
 ル處ナルヘキヤ假令露國ノ無力之ヲ如何トモ
 ナシ難シトスルモ此ノ間將來ニ於テ外蒙古ノ
 邊境ニ幾多ノ葛藤ヲ生スヘク延テハ累ヲ召メ
 ノフヲ支持シアル帝國ニ及ホスコト無シトセサ
 ルヘシ最近「セメ」ノ奉天ニ張作霖ヲ齊々哈爾
 二孫烈臣ヲ訪テ專ラ蒙古獨立ノ虛構ナルヲ陳
 へ實行セシメサルコトヲ確言シ多少ノ了解ヲ
 得タルカ如ク傳ヘラルルト雖支那政府殊ニ武
 断派ノ蒙古經營ハ上記ノ如キ利害ヨリ打算セ
 ラレタル必要ヨリセルモノニテ到底一時的感
 情ノ良ク融和シ得ル所ニ非サルナリ
 段祺瑞ヲ中心トセル武断派ト我前政府トハ曾
 テ相互良好ナル了解アリ日支親善提携ヲ目的
 トセル諸施設ハ著トシテ進歩シツツアリシ
 程ノモノナレハ今ヤ情況ハ豹變シ彼等ノ期待
 セル援助ヲ缺キ世ハ端ナクモ排日的思想ヲ以
 テ蔽ハルルニ至リシト雖彼等一派カ舉テ我ヲ

MT 1614 5 556

圖ニアルハ殆ト疑ヲ容レサル所ナリ從テ若シ
 現狀ノ儘之ヲ自然ニ放置セラレンカ早晚漢民
 族ノ威カハ頓ニ加リ露人ハ漸次驅逐セラレテ支
 那人ノ跋扈トナリ蒙族ノ壓迫トナルヘキハ想
 像ニ難カラサル處ニシテ果シテ如斯ンハ單ニ
 極東哥薩克ノ總頭梁タルノミナラス陰然ガリ
 ヤード族及蒙古族ノ親分ヲ以テ自ラ許セルセ
 メノフ耐ヘ得ル所ナルヤ殊ニ多年來支那人ヲ
 蛇蝎視シ其ノ壓迫ヲ嫌忌シアル蒙族ノ忍ビ得
 ル處ナルヘキヤ假令露國ノ無力之ヲ如何トモ
 ナシ難シトスルモ此ノ間將來ニ於テ外蒙古ノ
 邊境ニ幾多ノ葛藤ヲ生スヘク延テハ累ヲ召メ
 ノフヲ支持シアル帝國ニ及ホスコト無シトセサ
 ルヘシ最近「セメ」ノ奉天ニ張作霖ヲ齊々哈爾
 二孫烈臣ヲ訪テ專ラ蒙古獨立ノ虛構ナルヲ陳
 へ實行セシメサルコトヲ確言シ多少ノ了解ヲ
 得タルカ如ク傳ヘラルルト雖支那政府殊ニ武
 断派ノ蒙古經營ハ上記ノ如キ利害ヨリ打算セ
 ラレタル必要ヨリセルモノニテ到底一時的感
 情ノ良ク融和シ得ル所ニ非サルナリ
 段祺瑞ヲ中心トセル武断派ト我前政府トハ曾
 テ相互良好ナル了解アリ日支親善提携ヲ目的
 トセル諸施設ハ著トシテ進歩シツツアリシ
 程ノモノナレハ今ヤ情況ハ豹變シ彼等ノ期待
 セル援助ヲ缺キ世ハ端ナクモ排日的思想ヲ以
 テ蔽ハルルニ至リシト雖彼等一派カ舉テ我ヲ

MT 1614 5 555

恨之我ヲ敵視シ月並ニ其排日黨ト共ニ走ルカ
 如キコトモ無カルヘキニヨリ武断派勢力ノ擴
 張ハ指導其ノ宜シキヲ得ハ必シモ忌ムヘキコ
 トニ非サルヘク從テ其ノ蒙古經營ノ如キ左迄
 苦慮スルニ足ラサルノミナラズ轉ニテ以テ我
 ニ利スルコト亦不可能トモ断ニ難カルヘシ然
 レトモ一面セメテハ極東露國ノ有力ナル維持
 者トシテ其ノ當初ヨリ多大ノ援助ヲ與ヘ漸次
 ニ其ノ勢力的基礎確立シ極東哥薩克總頭梁タ
 ルノ地位ヲ贏テ得ルニ至リシモノニテ其ノ我
 ニ關係スル處極メテ大ナルヲ論ヲ須タス而シ
 テ又彼カ民族ト其ノ經歷トノ關係ヨリシテア
 リヤード^五及蒙族ヨリ頭目ノ如ク押サレアルモ
 ノナレハ漢民族ノ蒙古發展カ忽チ之トノ衝突
 惹起ヲ免レ難シトセハ依テ受クル帝國ノ煩累
 亦輕シトセサルヘシ況ヤ蒙古獨立ノ事タル容
 年來我國カ之ニ暗助ヲ與ヘアリトノ疑心ハ牢
 乎トシテ支那人ノ腦裏ニ刻マレ今尚全ク消滅
 セシメ能ハサルモノアルニ於テオヤ
 茲ニ於テカ吾人ハ我政府カ迅速ク蒙古問題ノ
 將來ヲ豫測シ之ニ對スルノ方針ヲ確定シ一定
 ノ主義ノ下ニ露支兩國ヲ指導シテ其宜シキニ
 安住セシムルノ策ニ出スルノ必要ヲ切實ニ感
 スルト共ニ常ニ本問題ニ接觸シツツ以テ邊境ニ支那
 側指導ノ任ニ膺リアルノ身トシテ此ノ際右ニ關スル具體
 的指示ヲ與ヘラレシコトヲ庶幾フヤ切ナリ矣

MT 1614 5 558

MT 1614 5 557

520682

秘受11772號 秘

大正八年拾月七日 接獲

陸軍省 第三課

十月五日

電報

十月三日午後一時 留年 十時 甲公為

局長

宛

在 東京 原 女 侍

支極秘 牙四一〇号 (九月廿日 幣 秘 升 電)

活佛 勝福 拜伏 云々 (高 三 七 三 一) 想像 及 び 其 他 無 根 之 言

要旨

支那カ 西北 軍 一 部 之 攻 方 面 之 進 出 活 佛 之 名 ヲ 騙 之 海

拉 爾 政 廳 轉 覆 之 計 画 ヲ ナ ン ン 非 凡 カ 支 那 武 官 之 言 之 依 之

外 蒙 政 廳 之 進 出 之 事 及 び 其 他 之 事 獨 立 運 動 之 因

之 勸 誘 煽 動 等 一 切 之 事 書 類 之 類 雜 使 之 呈 供 せ り 特

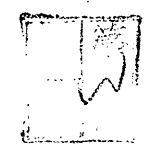
陸軍

MT

1614 5

559

520683



次官

其

日

要目付了



事務局長 佐々木 謙

真

別紙在庫備松井中位ノ表
 處事者ノ至極大ノ儀ナリ
 牛降表ノ行方ハ可ナリト
 務運動不圓滑ノ聲明ニ準
 之何事カノ方法ニ我公ハ
 無怒ニ思ハル旨明ニ書
 之要ア之ニ参謀本島ヨリ
 松井中位ノ直ノ父事ノ實則
 之書ルノ事ハ之ニ記シテ
 希者ノ其見ヲ承ルル事
 之事ト下ノ事ナリ

外務省

本件ハ十月十三日備中位ノ訪内陸
 軍方長官ノ旨
 之事ハ
 中位ノ旨

MT

1614 5

561

MT

1614 5

560

520686

電報

十月七日午後三時三十分發
在北京

總長宛 東少將

支極秘第四一九號

十月五日發松井電(庫倫)

外蒙政廳ヨリ支那官憲ニ提供セル獨立運動ニ関スル
書類ハ「カウリヤ」政廳ヨリ外蒙政廳ニ送レルモノヲ主トシ
テ其他「セミヨノフ」等ヨリ電報ニシテ獨立運動ノ軍費
兵器ハ某國ノ援助アリト明記シヤリト又數日前ニモ「
ロシヤ」及「セミヨノフ」軍ノ某「將軍」(外
蒙東辺ノ主府)ヨリ有シ同時ニ「ジャライト」活佛

陸軍

ヨリ庫倫活佛へノ書面ヲ托セリ其ノ内容モ略全一ニ
シテ之レ亦軍ニ送附セラレシナラン此種書類ノ曝
露シテ假令日本ノ関知セサル所ナリトハ云ハ從來支
那カ日本ニ對シ懷キシ疑念ヲ高メ日支國交上悪
影響ヲ增加スルモノト憂慮ニ堪ヘス由來秘密
沈黙主義ハ日本カ列國ヨリ誤解セラルル原因
ナリ日本ハ外蒙政廳等ニ對シ非公式ニナリトモ
日本ノ對蒙方針ヲ説明スル意ナキヤ「ブリヤート
」コサツク「ト」事ヲ企テ「ケタ」ニテ會議スル由ニ
テ當地ヨリモ代表者出奔セリ

MT 1614 5 566

MT 1614 5 565

520687

日五廿月十年八正大
聞新日朝系東

外蒙自治取消講究
露公使と交渉せん
二十三日
東京特派員

外蒙自治取消問題に就き北京政府は外交部並に蒙藏院に命じて取消を爲さしめつゝあるが外交部にては蒙藏院を設けて取消後の善後方法を講究しつゝあり外蒙七部落の自治を布くに至れるは民國三年の露支協約の特許條約に基くを以て自然取消の根本は右の條約を廢止するにありと爲し露公使に該條約の廢止を交渉するに決せりと傳へたる露駐華公使の使者近々入京し一紙を面陳する所あるべし

日五廿月十年八正大
聞新日朝系東

外蒙歸順疑無し
徐樹錚氏の庫倫行

【北京特電】(廿二日發) 外蒙自治取消に關する公文は未だ北京政府に提出せられざるも自治取消に關する公文は未だ北京政府に提出せられざるも自治取消に關する公文は未だ北京政府に提出せられざるも自治取消に關する公文は未だ北京政府に提出せられざるも

MT 1614 5 568

MT 1614 5 567

520688

大正八年十月廿五日
東京日日新聞

大正八年十月廿五日
東京日日新聞

蒙古王侯の請願

【北京特電】(廿三日) 蒙藏院の善後協議より北京政府に達したる公電左の如し

對蒙古各王侯の請願書に接したるが其内容は往年奸人の言に誤られ自ら自治に甘んじたるも爾後隣人の欺き罵を蒙り苦痛に堪へず之を北京政府が内蒙王侯を優待するに比し天壤の差あり故に自ら自治を取請し中央政府に希望せん事を願ふ自治中露國より借款せし金額は外蒙古政府より露國に交渉し中央政府より償還する事なしたる各王侯の年俸は其額多なるを以て中央政府より支出ありたしとあり事體急迫之を受けざるを得ず況んや限りある金額を以て莫大の領土を恢復し得るは千載の好時機なるに於てを以て王侯諸氏を王冠せしめ詳細を陳述せしむ

右の特使及請願書本文は前到着せるも蒙藏院は陳儀氏の電報に既き研究したる結果民國二年協約を廢止する前王侯の年俸は八十万圓の支出方法を定むる餘地は外交部後者は財政部にて立案し目下協約中なす

露國公使焦慮

【北京特電】(廿三日) 外蒙古自治取消問題發生以來露國公使館は其成行に注意し、ありしが廿二日、露國公使館に派し陳儀氏代理に面會し「外蒙古自治取消の風説あり支那政府は之に對し如何なる案に接せりや又支那政府は之を獎勵したる事なきや」と質問したるが陳儀氏は何等の報告を打せずと答へたるが露國公使クスターシエフ公は各方面の報道に徴し陳儀氏代理の答に満足せず徐總督若しくは新總督に直接面會し露國公使館の管理に責任を得んと欲するより支間に一紛擾生ずべき虞あり

MT

1614 5

570

MT

1614 5

560

REEL No. 1-0649

05 19

電送第九〇三號
大正八年十月廿七日

520689

費

六十三七

在支

小幡公使

内田外務大臣

一三五九

在庫倫松井中佐其其也
情報は近日方面に於て不相
善日弁方以蒙、独止る援助
に、いかに難う於中佐其也
ト、難うに、午後、外務大臣
に對し、馬ト日本、其其也、説
明し、請ふ、除く、様、措、き、下
に、事、下、請、ふ、事、下、協、議、上
陸軍、方面、向、く、東、少、将、三、連、右
方、計、方、松、井、中、佐、一、電、訓
を、委、細、い、參、謀、次、長、其、其、也
少、将、北、往、庫、蒙、一、九、六、年、

MT 1614 5 572

MT 1614 5 571

520691

(一) 由旅順
浦潮火

寫

秘

外務省
十月二十七日

十月二十七日午後四時

| | | | | | | |
|------------------|----|-------------------|----|------|----|-----------------------------|
| 宛名 北京旅順 浦潮 | 總長 | 東少將 天津 軍務課長 | 主任 | 庶務課長 | 發送 | 北京第一九六号 旅順第一三五号 天津第三号 |
| | 部長 | 東少將 天津 軍務課長 | 主任 | 庶務課長 | 發送 | 天津第三号 |
| 電報案(暗部) | 部長 | 東少將 天津 軍務課長 | 主任 | 庶務課長 | 發送 | 天津第三号 |
| | 部長 | 東少將 天津 軍務課長 | 主任 | 庶務課長 | 發送 | 天津第三号 |
| 次長 | 部長 | 東少將 天津 軍務課長 | 主任 | 庶務課長 | 發送 | 天津第三号 |
| | 部長 | 東少將 天津 軍務課長 | 主任 | 庶務課長 | 發送 | 天津第三号 |

東少將ニ左ノ如ク電報セリ御含ニ迄
 外蒙及「フ」ヤト「ト」族ノ獨立問題ニ對スル帝國ノ
 方針ハ累次電報シタル通りナルカ各方面ヨリノ
 情報ニ概シテハ外蒙政廳及支那政府ハ今尚日
 本カ「フ」ヤト「ト」族ノ獨立運動ヲ援助シアルヤヲ
 疑ヒアルカ如シ現ニ支極秘第四九號未電ノ

MT 1614 5 . 575

520692

次第モアノ外務省モ此際外蒙政廳ニ對シ帝國
ノ方針ヲ說明シ置テ有利トスル意見ナルニ付
貴官ハ松井中佐ヲシテ本年三月十一日發芽四
台驛訓電(對蒙方針ニ付廟議決定ノ件)ノ主旨
ニ基テ日本ハ外蒙又ハソブヤートノ獨立ヲ援助ス
ヘキ何等ノ陰謀ニモ干與シテアラザル旨ヲ非公式ニ
外蒙政廳ニ說明セシメラレタリ、外務省トテ合セ濟
ミ○旅順浦潮通報済

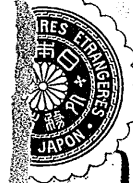
MT 1614 5 . 576

REEL No. 1-0649

0523

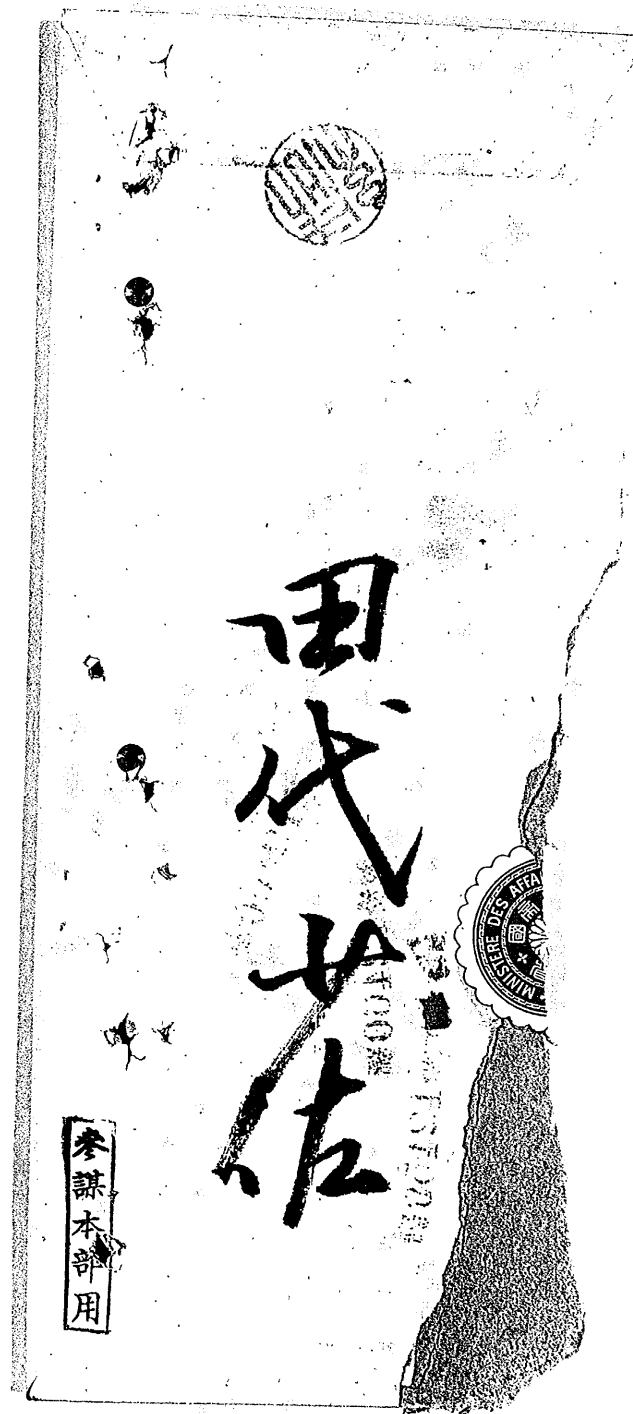
事務省
高尾總督事殿
三十五
由附

秘規



REEL No. 1-0649

0524



REEL No. 1-0649

0525